



はまぐち ごろう
濱口 梧陵

1820年(文政3年)

1885年(明治18年)

安政地震津波の襲来時、稲むら(スキヤ稲束を積み重ねたもの)に火を放ち、この火を目印に村人を誘導して多くの命を救いました。この実話をもとにしたのが「稲むらの火」です。梧陵はその後も被災民救済と復旧に尽力したばかりか、百年後の津波に備えるため巨額の私財を投じ、高さ5m、幅20m、長さ600mの大堤防を築きました。この大工事に村人を雇用することによって、津波で荒廃した広村は奇跡の復興を遂げました。広村堤防は1938年(昭和13年)、国に史跡指定され、毎年11月5日には100年余りの歴史がある「津浪祭」が開催され、梧陵の偉業を称えています。

2020年は濱口梧陵生誕200年です。



稲むらの火の館

濱口梧陵記念館 津波防災教育センター

〒643-0071 和歌山県有田郡広川町広671

TEL:0737-64-1760/FAX:0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

開館時間：午前10時～午後5時(入館時間は午後4時まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)年末年始(12月29日～1月4日)

11月5日 世界津波の日(開館します)

入館料：一般：500円/高校生：200円/小・中学生：100円

(学校の教育活動の場合、小・中学生は半額)

(団体でのご来館は事前にお申し込みください)

交通のご案内：電車の場合・JRきのくに線「湯浅駅」下車、徒歩約15分。

車の場合・湯浅御坊道路「広川IC」から、北西へ約10分。

稲むらの火
公式チャンネル

Inamura-no-Hi Official Channel

YouTubeで「稲むらの火」のお話や
「稲むらの火祭り」の様子が動画で見られます。

<http://bit.ly/1poBwBs>



稲むらの火の館

Inamura-no-Hi no Yakata

地域交流センター Regional community center

濱口梧陵記念館

Hamaguchi Goryo Archives

津波防災教育センター

Tsunami Educational Center

稲むらの火の館は
多言語対応しています。



世界津波の日の制定 —はじまりは「稲むらの火」—

2015年12月22日の第70回国連総会本会議にて、世界中で津波に関する意識を向上させるために11月5日が「世界津波の日」として制定されました。11月5日は、1854年(安政元年)に和歌山県広川町で起きた大津波の際に、濱口梧陵が稲むらに火をつけることで早期に警報を発し、避難させたことにより村民の命を救い、被災地のより良い復興に尽力した「稲むらの火」の逸話に由来しています。また、日本国内においても、11月5日は「津波防災の日」と定められています。



広村堤防(国指定史跡)

高さ5m幅20m長さ600m

広村堤防は、1854年(安政元年)に発生した安政南海地震の後に、濱口梧陵の指揮のもと築造されました。後にこの堤防は昭和南海地震の津波の際などにおいて効果を発揮しました。広村堤防建設費、銀94貫のほとんどを梧陵は私財で賄ったのです。3年10ヶ月の歳月を費やし、延べ56,736人の人員をかけて見事に広村堤防は完成しました。この堤防のお陰で1946年(昭和21年)に発生した昭和南海地震津波で、見事にその役割を果たし、多くの広川町の住民を守りぬきました。



稲むらの火の館、アチェ津波博物館と提携

2016年1月16日



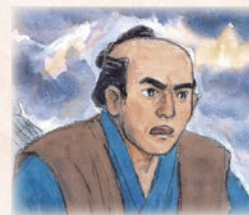
2004年12月26日に発生したスマトラ沖大地震・インド洋津波災害ののち、当時のアチェ・ニース復興庁によって建設。2009年2月にオープン。現在は、アチェ州観光局とバンドゥン地質学博物館(エネルギー・鉱物資源省が管轄)との共同で運営されています。

津波被害を後世に伝える「教育施設」としての機能と災害発生時の「避難施設」としての機能を併せ持っています。

内部は3層になっており、鎮魂スペース、被災当時の映像資料やパネル、被災状況を再現したジオラマなどがあります。

「稲むらの火」あらすじ

一昭和12～22年国定国語教科書に掲載された、中井常蔵 著作「稲むらの火」より—



「これはただ事ではない。」

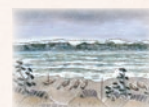
今起こった不気味な地震と地鳴りに、庄屋の五兵衛は沖に目をやった。海岸はどンドン波が引いている。「大変だ。津波が来るに違いない。」村人たちは宵祭の支度に一所懸命で気づく気配がない。

このままでは四百の命が村もろともひとのみにやられてしまう。五兵衛は、もう一刻の猶予もならないと大きな松明をもってかけ出した。田にたくさん積まれた刈り取ったばかりの稲束の一つひとつに、「もったいないが、これで村中の命が救える」と夢中で火をつけてまわった。



勢いよく燃え上がる火に気づいた村人たちは、「庄屋さんの家が火事だ」と急いで一人、また一人と丘にかけ上がって来た。火を消そうとする若者を押しとどめて五兵衛は叫んだ。

「見ろ。やってきたぞ。」
五兵衛の指さす方向を見た村人たちは息をのんだ。



一筋の細い波がみるみる太くなるやいなや、とてつもない速さで津波が押しよせて来た。「津波だ!」

海水は絶壁のように目の前に迫り、雷のような轟音をたてて村をのみこんだ。津波は二度三度と、村の上を荒れ狂いえぐり取り、ついにはあとかたもなくなってしまうた。



稲むらの火は風にあおられ夕闇を明るく染めた。我に返った村人たちは、この火によって救われたのだと気づくと、無言のまま五兵衛の前にひざまずいてしまった。



稲たばを重ねた「稲むら」



※『稲むらの火』の全文はこちらのQRコードで読むことができます。

津波防災教育センター

Tsunami Educational Center

津波の恐ろしさについて
学べるほか、災害時に
一時避難場所となる施設だよ。

1

pepperと
遊ぼう！



2

津波防災の知恵を、ゲームや
映像で身につけよう。



4

ミニ津波を実際に見てみよう。
津波のことがよくわかるよ。

5

津波の恐ろしさを体感できる
3D映像を見てみよう！



6

「稲むらの火」のことが
よくわかるよ！



7

津波の歴史の中で
防災を継承した道をたどろう！

8

「稲むらの火の館」と提携した
「アチェ津波博物館」を紹介！

みどころ案内



津波防災教育センター Tsunami Educational Center

濱口梧陵記念館 Hamaguchi Goryo Archives

館内は8か国語に対応しています。



地域交流センター

濱口梧陵記念館

Hamaguchi Goryo Archives

濱口梧陵さんの生家で、
生い立ちから晩年までの足跡や、
人柄を感じさせるエピソードに
出会えるよ。



1

梧陵さんの生い立ちから晩年までを
たどりながら、紹介しているよ。



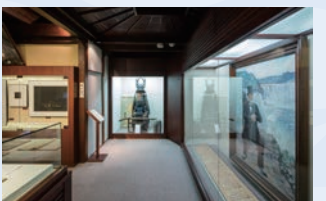
2

映像を通し梧陵さんの
人生にふれ、学びを楽しむ
活動の場です。



3

ギャラリーなど多目的に活用し
学びを楽しめるよ。



4

江戸時代の甲冑も
展示しているよ。



5

梧陵さんの精神にふれる、
地域交流の場です。



6

梧陵さんも愛した
美しい庭園が見られるよ！